



あさひ11号

2019年(令和1年)

7月30日発行

福山市立旭小学校長

池田 恭子

おしゃか様の指

おしゃか様が天から人間の世界を見ていると、一人の男が荷車を引いて歩いているのが見えた。汗をふきふき荷車を引いているうちに、ぬかるみにはまってしまった。

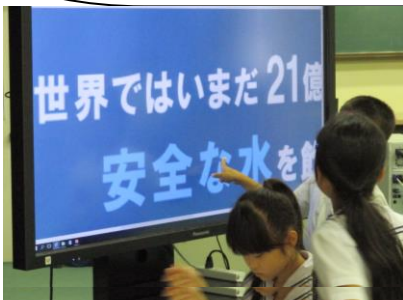
さあ、困った。男は一生懸命引いたり、押ししたりするが、荷車はびくともしない。男は仕方なく、道の横に座って誰か人が通りかかるのを待つことにした。ところが、運悪く、いくら待っても誰一人通らない。

早く行かないと日が暮れてしまう。男はあせった。他人に助けてもらおうと思ってもだめだ、自分の力で何とかしなくちゃと、男は思った。

おしゃか様は、男が人にたよらず、自分の力で何とかぬかるみから荷車を引き出そうと決心したのを知ると、見えない指で荷車をちょっと押してあげた。

すると、荷車は何事もなかったようにカラカウ音をたてて動き出した。

男は、おしゃか様が押してくれたなど全く気がつかない。自分の力で引き出したと思っている。

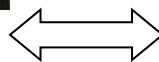


「自分の力で育った、成長したのだ」

と子どもたちに思わせることが大切

教師は「おしゃか様の指」のような指導をしたい

子どもを主体的に育てる



手とり足とりの指導，子どものためにつくす

「先生から言われた通りきちんとやるより、任せてくれた方がやりがいがある」

「どうしたら楽しい〇〇（活動）ができるか。」（自分たちのくらしは自分たちでつくる）

一言足りない指導，一手少ない指導

子どもが自分で考えなくてはならない

おさえるべきところだけおさえる

「菊の苗は、毎日水をやると根を出さない。水をやらないから、何とか生きようとして根を出し、少しの水でも吸収しようとする。つまり、水をやらない日がある方が早く根を出し、丈夫な菊ができる。」



参考文献：有田和正「楽しい学級づくり入門」（明治図書）

本校の目指す資質・能力

課題発見・解決力 コミュニケーション力 やりぬく力 思いやり